会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（４月定例会）会議録
開催日時	平成30年４月16日（月）14時00分から16時10分まで
開催場所	保谷庁舎３階第２会議室
出席者	委　員：内田議長、木下副議長、岩崎委員、川原委員、播賀委員、 沼本委員、長谷川委員、服部委員、原委員、 矢野（真）委員、小林委員、矢野（尊）委員 事務局：木村教育長、岡本課長、掛谷課長、堀主幹、奥住主事
議題	（１）放課後子供教室について （２）その他
配布資料	資料１　（仮称）放課後子供教室事業の今後のあり方について（提言）案文
記録方法	□全文記録　□発言者の発言内容ごとの要点記録　■会議内容の要点記録

会議内容

●事務局より、４月１日付教育部の人事異動について報告。
●教育長より挨拶。

●平成30年３月の定例会議の会議録について、承認する。

（１）放課後子供教室事業について
●事務局より、進捗状況について資料１に基づき報告。

〈修正〉
・５ページ「２（１）①」の１つ目のマルを「○各運協間での意見交換や情報交換の機会を定例的に作る。（行政が主催）」と修正する。
・５ページ「２（１）①」に「○現行の連絡会は年に一回は実施することとする。（行政が主催）」を追加する。

○議　長：本日は「３」について、具体的に議論をする。意見等をお願いする。
○委　員：他自治体を参考にすることは必要だが、成り立ちから違うものもある。それを踏まえたうえで、西東京市ではどうするのか、何ができるのか、どのような体制づくりが必要なのかなどを具体的に議論する必要がある。
○委　員：地域コーディネーターについては定義する必要があると思う。
○委　員：「３」では、運営体制について具体的に書いたら良いと思う。

○委　員：東京都生涯学習審議会の「『地域と学校の協働』を推進する方策について―中間まとめ―」（以下「中間まとめ」）を読んだ。11ページに「連携」や「協働」について定義されている。これを踏まえて提言することが必要だと思う。また、19ページには、市町村教育委員会に求められる役割についても書かれている。地域コーディネーターというのは、教育委員会が責任を持って位置づけなければならない。
○委　員：コーディネーターの配置については、西東京市に当てはめた場合、妥当かどうか考える必要があると思う。
○委　員：西東京市における理想やそれを踏まえた方向性を提言するのが我々の役目だと思う。予算のあるなしに関わらず、議論し、提言するべきである。
○委　員：ゼロからすべてを考えるのは大変かつ時間もかかる。前例等を参考に、必要なところを取り出して、西東京市のためにまとめるのが良いと思う。
○委　員：現在の放課後子供教室事業の延長線上でメンテナンスをしても、大きく変わることは難しいと思うので、新たに専門の組織を設置するなどが必要ではないか。
○委　員：モデル校を指定して、取組を進めても、全市的に波及させるのはなかなか難しい。様々な事例を参考に、うまく進んでいる部分を積極的に取り入れたら良いと思う。
○委　員：統括コーディネーターの役割が行政に必要であるということは提言で書きたい。子どもの居場所という枠組みの中の放課後子供教室という視点で議論することが必要。一部の自治体では、学校の事務職員がコーディネーターを兼任する事例もあるので参考にしたい。地域との関係の基盤をつくるという意味も含めて、提言できると良いと思う。
○委　員：学習活動の有無でより毎日実施があるかの方が重要視される傾向がある。
○委　員：保育園は夜間まで保育があり居場所があるが、小学校に進学してからの居場所は確保されていないように思う。
○委　員：首長部局と教育委員会が連携・協働し、子どもの居場所について取り組まなければならないと思う。各々で取り組みを進めても効果は薄い。
○委　員：西東京市として、放課後子供教室や学童をどう考えているのか。
○委　員：行政に向けて理想を提示することも大切だが、社会教育委員として、西東京市の現状にあうようにしなければならないとも思う。
○委　員：現在を踏まえての理想も良いが、５年後には現状は大きく変わってしまう。それも見据えた将来像を示せたら良いと思う。
○委　員：これまでの議論で出た問題点等を踏まえ、将来展望のようなものを示せたら良いと思う。
○委　員：コーディネーターは、組織があってこその役割だと思うので、その部分をどう言及するか。
○委　員：行政に統括コーディネーターが必要だと書くには、他にどのような情報が必要なのか議論するべきである。
○委　員：西東京市の場合、現在は運協が担い手となっているが、放課後子供教室のために組織されたものではないので、少し複雑だと思う。
○委　員：先進市の事例を参考にする際に、どのような経緯だったのかについても考えることが必要だと思う。
○委　員：新しい組織を設置するなら、学校との関係性も考慮するべきだと思う。
○委　員：学校の事情とすり合わせながら進めることは大切だと思う。
○委　員：理想を述べたからといって、それを押し付けるわけではない。今後活動を続けていくうえでの可能性について話をしている。
○委　員：中間まとめで示されていることも視野に入れつつ、放課後子供教室をどうしていくのかまとめるべきだと思う。全てにおいて同調するのは違うと思う。

○議　長：起草委員会で案文を修正し、５月21日の定例会で全体に示す。本日の議論をふまえ、意見等あれば事務局に提出することとする。

（２）その他

※小平市視察について

・日時…平成30年３月28日（水）
・会場…小平市立小平第四小学校
・参加委員…６名

○議　長：参加者に、感想等お願いする。
○委　員：まず基本的に、組織形態が西東京市とは違うことが分かった。今後の放課後子供教室について論じる際は、小平市のような組織形態は良いと感じた。
○委　員：学校を利用している団体を多く取り込んでおり、参考になった。西東京市でも似たようにできるものがあると感じた。
○委　員：学校側からの働きかけが積極的であると思った。学生ボランティアをうまく活用していると思う。事業に参加する児童にとっても、学生ボランティアにとっても、良い機会になっているなと思った。
○委　員：地域の団体への場の提供が、イコールで学習教室となっているように感じた。双方にとってメリットがあるので、良い仕組みだと思う。
○委　員：学校施設の利用団体を取り込んでいく方法は、今後参考になると思う。
○委　員：学校のどのような場所を使用しての実施していたのか知りたい。
○委　員：放課後子供教室用の部屋があった。学校の余裕教室も十分に使用できるようだった。
○委　員：行政が主導して取り組むことで、学校が地域に開かれたと思う。

※３館合築ついて

●事務局より、３月議会における質疑等について報告。

○議　長：それでは以上で、社会教育委員の会議４月定例会を終了する。

※次回会議　　平成30年５月21日（月）午後２時から